

石仏にみる月待信仰



八千代市吉橋 尾崎大師堂
二十三夜塔 寛文8(1668)



八千代市萱田 長福寺
二十三夜・日記念仏塔 寛文9年(1669)

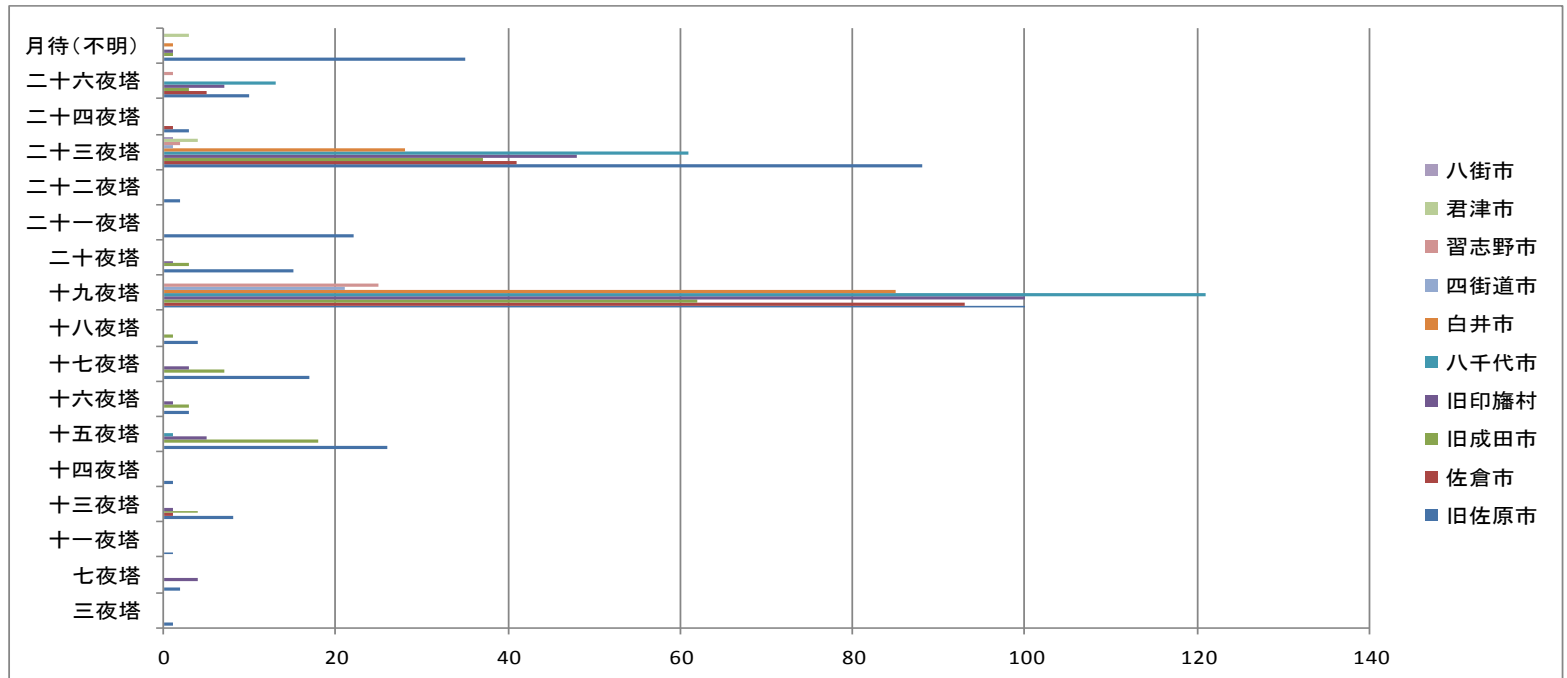


旧本埜村中根 福聚院
十九夜塔 寛文9年(1669)

北総10市町村の月待塔の種類別基数

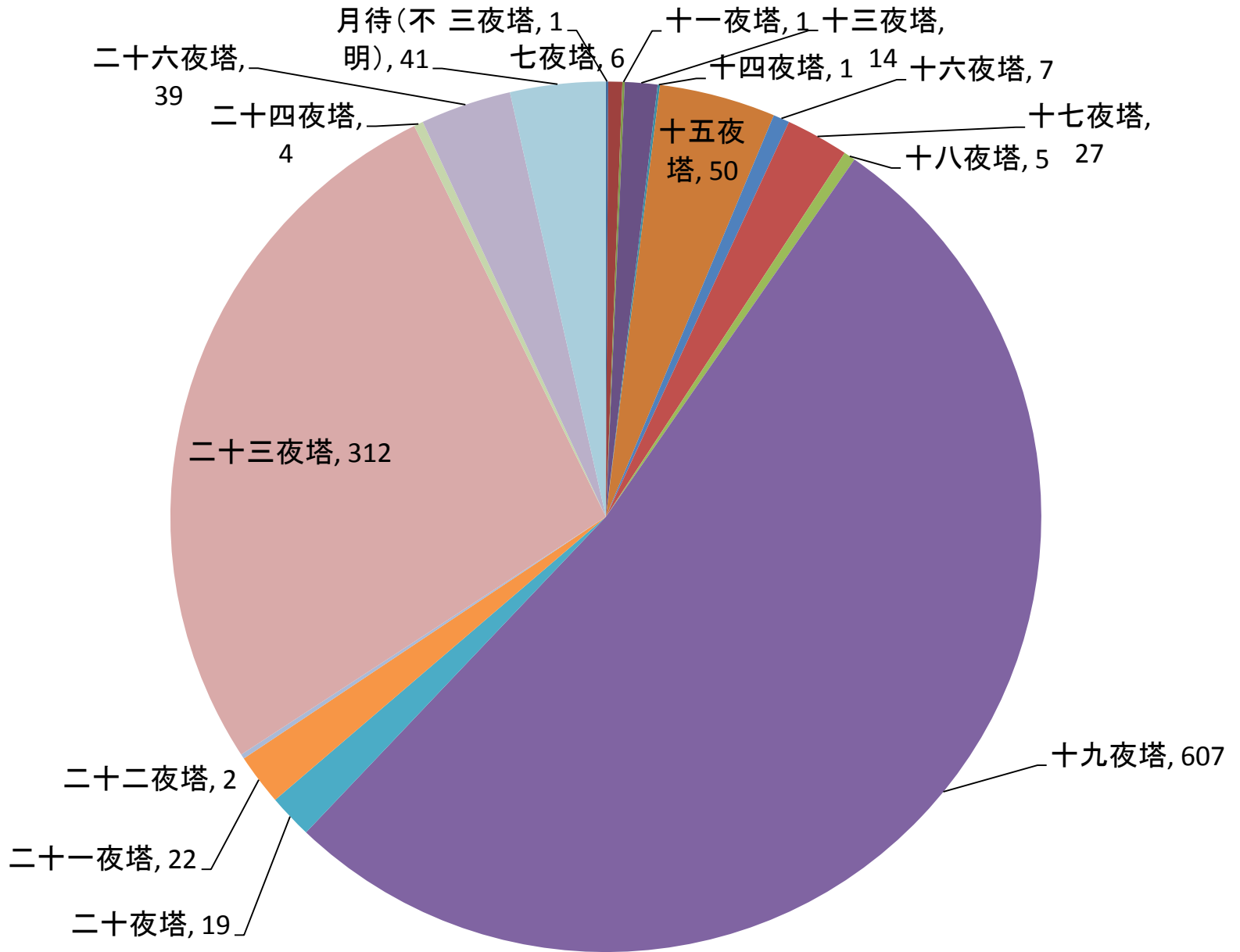
① 千葉県北部の月待塔の地域的な様相

月待塔種類	旧佐原市	旧成田市	佐倉市	旧印旛村	八千代市	白井市	四街道市	八街市	習志野市	君津市	計
三夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
七夜塔	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	6
十一夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十三夜塔	8	4	1	1	0	0	0	0	0	0	14
十四夜塔	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
十五夜塔	26	18	0	5	1	0	0	0	0	0	50
十六夜塔	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	7
十七夜塔	17	7	0	3	0	0	0	0	0	0	27
十八夜塔	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
十九夜塔	100	62	93	100	121	85	21	0	25	0	607
二十夜塔	15	3	0	1	0	0	0	0	0	0	19
二十一夜塔	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
二十二夜塔	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
二十三夜塔	88	37	41	48	61	28	1	1	2	4	311
二十四夜塔	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
二十六夜塔	10	3	5	7	13	0	0	0	1	0	39
月待(不明)	35	1	0	1	0	1	0	0	0	3	41
計	338	139	141	171	196	114	22	1	28	7	1157

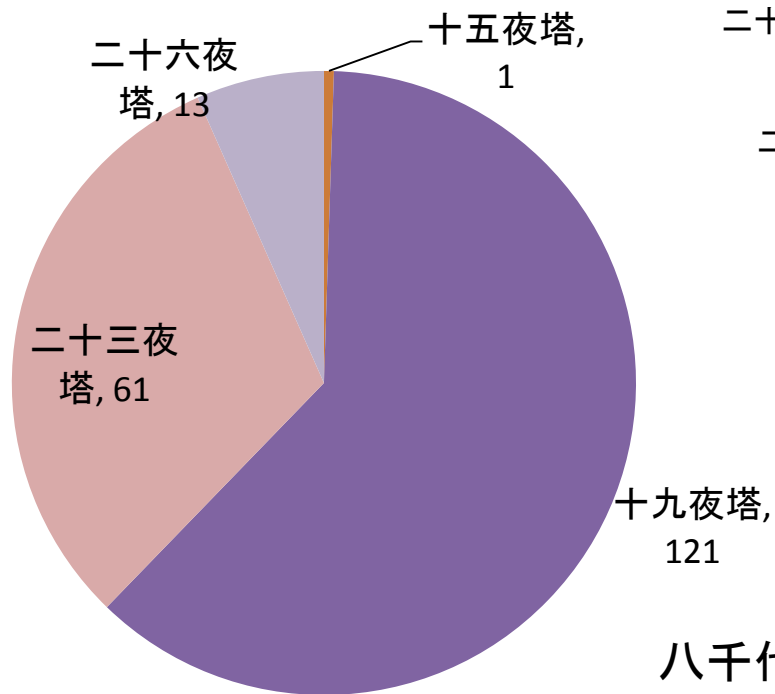
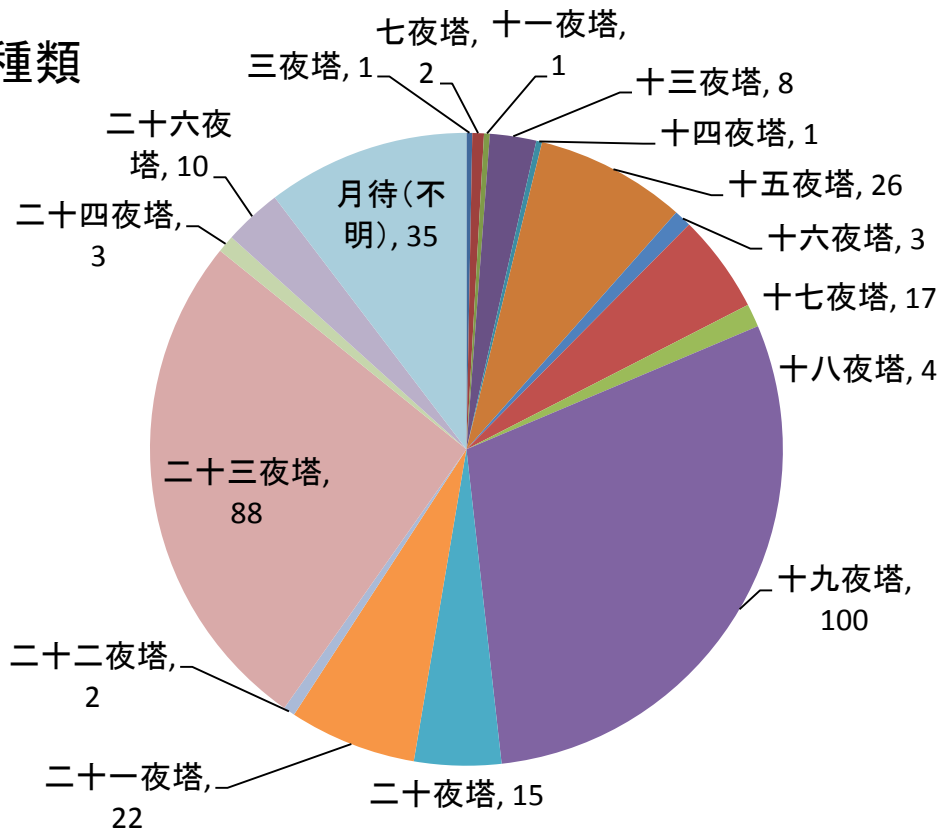


完全なデータを分析したものではありませんが、地域的な様相の違いや傾向の把握のために、集計してみました。

北総10市町村の月待塔の種類別基数グラフ



旧佐原市域の月待塔の種類



八千代市域の月待塔の種類

「十四月待」「十五日念仏」「十六夜」塔

② 十四〜十七夜塔の事例



元禄11(1698)
香取市山川墓地
阿弥陀像「拾四月待」



元禄9(1696)
佐倉市飯野観音 阿弥陀像
「十五日念仏」塔



寛政7(1792)土浦市小岩田東福
聖院廃寺跡 子安像
「十六夜」「女人講」

いろいろな像容の「十五夜」塔



享保1(1716)
八千代市村上 正覚院
地蔵像「十五夜念仏」塔
(おいわ おい口等女性名)



明和元(1756)
香取市龍谷 円珠院跡
聖観音像「十五夜」塔



文化7(1810)
香取市石納(こくのう) 観照院
子安像「十五夜」塔

十七夜塔



元禄11(1698)香取市
龍谷円珠院跡 聖観音像 十七夜塔



延享3(1746)香取市石納・結佐大明神
如意輪観音像 十七夜塔

③

十九夜塔をめぐる課題と事例

十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「**十九夜講**」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「**十九夜塔**」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の**如意輪観音像が主尊**として彫刻されています。



千葉県での十九夜塔の始まり

千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔で中段に「キリーク」の梵字と台石に「承応元(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘があります。

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では万治3年(1660)山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔からです。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地藏像の十九夜塔も見られます。

千葉県内の十九夜塔の初出をめぐって



千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔
中段に「キリーク」の梵字
基礎に「承応元(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘



山武郡芝山町加茂普賢院
明暦元年(1655)造立の六地藏立
像の石幢
「奉新造立石六地藏十九夜待」の銘



山武市本須賀の大正寺
万治2年(1659)宝篋印塔
「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村
奉唱満十九夜念佛二世安隠之所
萬治二年己亥三月十九日
結衆七十五人敬白」の銘

十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔-1



つくば市平沢の八幡神社



つくば市平沢官衙跡(復元)



石造六角地蔵宝幢
(16世紀末)



「寛永九年(1632)三月十九日 願主敬白」と刻した石塔

雲母片岩に稚拙な彫りで
日月と蓮華座に座す仏像を
刻む

「十九日」の日付から、観
音坐像を彫った十九夜供養
塔で筑波町最古とされてい
るが・・・



十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔-2



寛永10年(1633) つくば市 通称「北条新田」

(民家と八幡川にはさまれた大きな榎の根元に数基の石塔がある所)

「奉造立石塔者 十九」と刻む自然石文字塔

(中上敬一氏はこれが最古の「十九夜塔」とする)

上部に、日月と阿弥陀三尊の種字。

銘文は、「五十口人 敬白 / 口口・・ / 奉造立石塔者十九口口 / 寛永十年口酉 八月吉日」(『筑波町石造物資料集 上巻』による)

この石塔の周りには、寛政十二年(1800)の「庚申供養塔」、種子(キリク)に「十九夜念仏供養」銘の雲母片岩の塔、花崗岩の「十九夜供養」の文字塔や、銘のない石仏(大日如来か阿弥陀如来?)浮彫の雲母片岩の石塔などが、それぞれ樹の根と一体になって残されていました。

茨城県利根町の十九夜塔



利根川
栄橋利根町側から
印西市方面



寛永15年(1638)
利根町大平神社
「念佛之」「九月十九日」銘



寛文10年(1670)
利根町押戸毘沙門堂



元禄16年(1703)
利根町大平神社

如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



木像地藏菩薩立像(子育て地藏)



江戸時代地藏市の様子(利根川図志・赤松宗旦著)



茨城県利根町布川の徳満寺
万治元年(1658)の
最古の如意輪観音像の十九夜塔
左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)



最古の如意輪観音像の十九夜塔



万治元年(1658)茨城県利根町布川の徳満寺
四臂?如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



万治2(1659)利根町布川神社「十九夜」塔
六臂如意輪観音を線彫りした板碑型の塔

最古の如意輪観音像の十九夜塔-2



万治元年(1658)茨城県利根町布川の徳満寺
四臂?如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



万治2(1659)利根町布川神社「十九夜」塔
六臂如意輪観音を線彫りした板碑型の塔

千葉県で最古の如意輪観音像の十九夜塔



万治3年(1660)山武市
戸田の金剛勝寺の十九夜塔
上部に弥陀三尊の種字



寛文3年(1663)山武市
松ヶ谷の勝覚寺の十九夜塔

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1 初期



寛文5年(1665)
小倉青年館



寛文6年(1666)
山田円蔵寺



寛文8年(1668)
大森古新田青年館



寛文8年(1668)
和泉青年館



寛文8年(1668)
別所地藏寺

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2 初期



寛文8年(1668)
松虫寺



寛文9年(1669)
中根福聚院



寛文9年(1669)
小林 光明寺

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -3 初期



寛文11年(1671)
戸神青年館



寛文12年(1672)
印旛村平賀観音堂



寛文13年(1673)
竹袋観音堂

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -4 江戸中期



延享元年(1744)
宗甫観音堂



天明2年(1782) 小林 光明寺



寛政元年(1789) 中央公民館前
「江戸道」道標



文政10年(1827) 鎌苅 東祥寺

北総の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1



寛文10年(1670)
白井市延命寺



延宝2年(1674)
八千代市高津観音寺



貞享2年(1685)
松戸市徳蔵院



延享4年(1747)
千葉市花島観音

北総の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2



宝暦3年(1753)
佐倉市青菅正福寺



宝暦10年(1760)
佐倉市先崎雲祥寺



明和4年(1767)
八千代市麦丸 東福院



文化7年(1810)
白井市下長殿青年館

如意輪觀音像以外の像の十九夜塔-1



寛文13(1673)香取市
西音寺 聖觀音像 十九夜塔



延宝2(1674)香取市
田部西雲寺
聖觀音像 十九夜塔



元禄8(1695)香取市
西音寺 地蔵像 十九夜塔

如意輪観音像以外の像の十九夜塔-2



享保13(1728)習志野市
津田沼東福寺
大日如来像 十九夜塔



寛政2(1790)千葉市
横戸町明星寺
地藏像 十九夜塔



寛政11(1799)香取市
石納結佐大明神
虚空蔵像 淡嶋・十九夜塔

如意輪観音像以外の像の十九夜塔-5



享保5(1720) 佐倉市
先崎みどり台墓地 六地蔵 「十九夜講」銘



宝暦13(1763)八千代市萱田長福寺
宝篋印塔
「奉造立六地蔵講中 奉供養十九夜
講中 當村善女人」銘

子安像の十九夜塔 -1



寛延4(1751)旧大栄町
馬乗里お堂付近



宝暦2(1752)成田市
水掛48墓地



宝暦5(1755)旧本埜村
行徳稻荷神社

子安像の十九夜塔 -2



天明7年(1787)山田町
大角稻荷神社



寛政8(1796)香取市
与倉・西方院跡(公会堂)



平成26(2014)八千代市
下高野福蔵院

十九夜塔の分布

十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が
早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

十九夜塔の関東各県別の数

栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基

中上敬一氏の2005年報告

* 石田年子氏の2011年の集計で
千葉県 1997基

初期の十九夜塔造立数

寛文10年(1670)まで

茨城県側

利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基

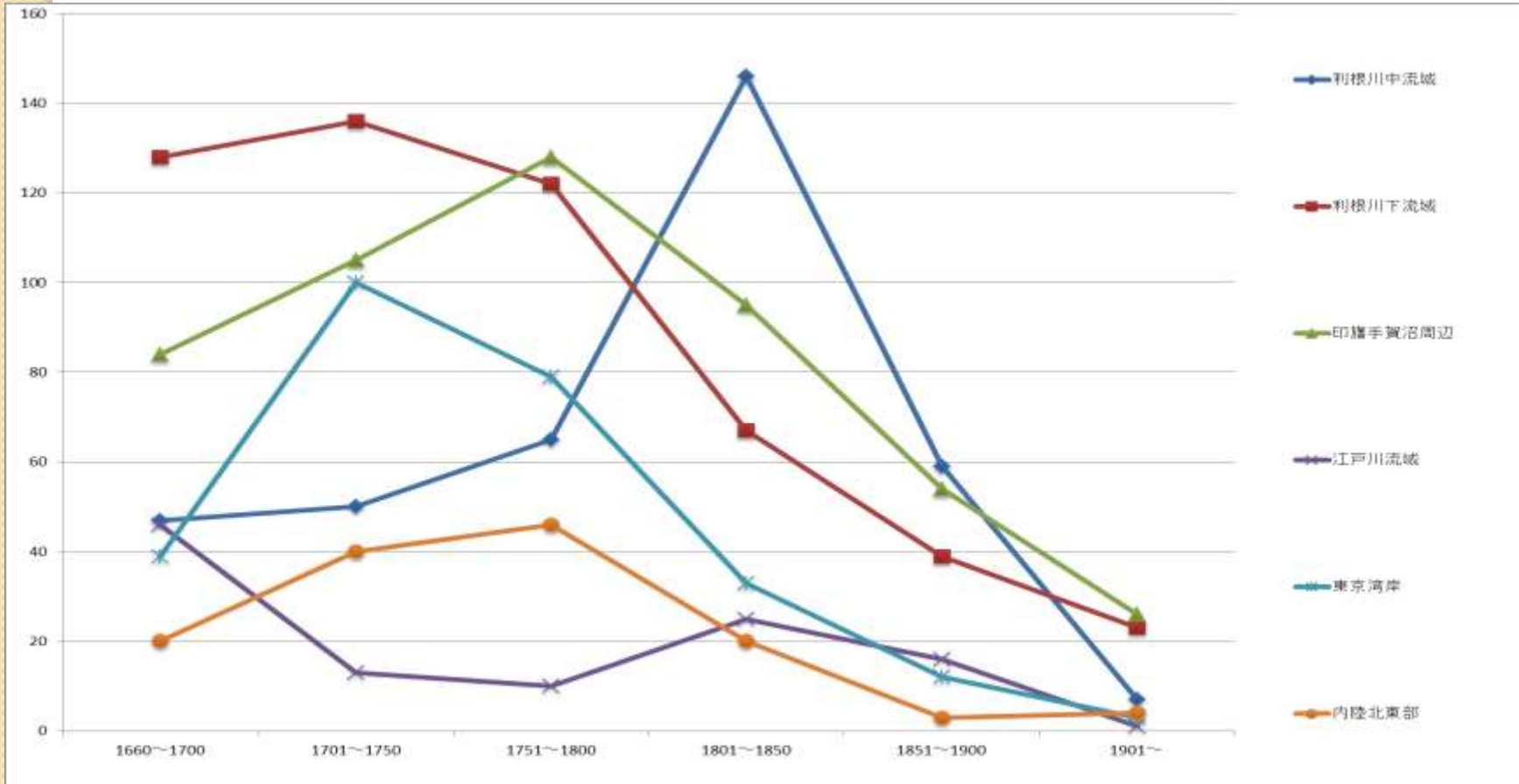
千葉県側

印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基

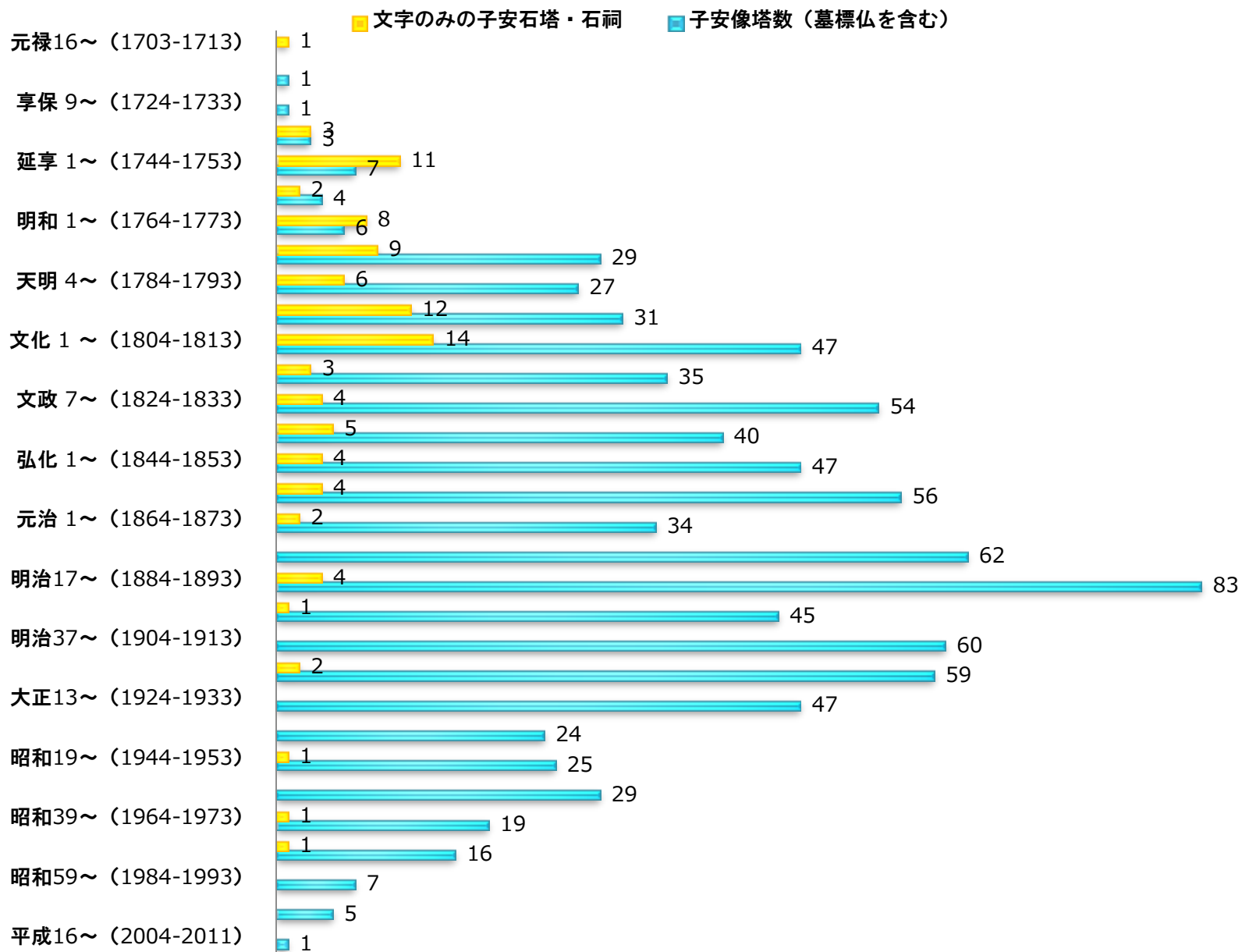


西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本笠
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



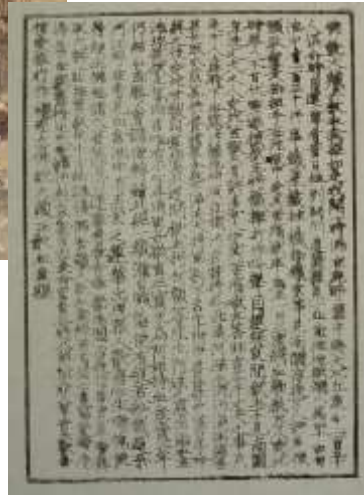
北総の子安塔数の推移



十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか



「熊野観心十界図」六道珍皇寺所蔵



血盆経(富山県立山博物館所蔵)



立山曼荼羅 吉祥坊本(血の池地獄)〔個人所蔵〕

「十九夜念仏和讃」=毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に墮ちた女人を如意輪観音が救済してくださる

「血の池地獄」=「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽経に出てくる地獄

月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界

「如意輪観音=血の池地獄の救済者」

何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。

京都六角堂(『聖徳太子=如意輪観音』化身説)⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来

熊野比丘尼の「観心十界図」(血の池・不産女地獄)絵解き=血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した

熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地

⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く

⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着

血盆経護符の携帯=不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

高辻奈緒美「血盆経信仰の諸相」から

なぜ十九夜なのか？ 利根川べりに十九夜塔が多いのはなぜか

五来重の『石の宗教』＝「観音の縁日の18日に遠慮」「十九は馬鹿とか安物、つまらぬもの」「女人自ら罪業深きつまらぬものと自覚」「間引きの罪悪感→死児の供養」

⇒遠藤和男「女人講は十九夜ばかりではない。江戸時代の女性は低い地位に甘んじていたかどうか検討の余地がある」

⇒中上敬一（⇒五来氏の説に反論）

「十九夜塔が関東で3000基以上も堂々と建立されている。」

「十九夜の由来は、女の厄払いと安産（難産除け）祈願であった、若き女の厄年は十九歳であるからこれを日厄にして十九夜ができた」（結果論か？）

茨城県新治郡出島村に残された明治十年の和讃

「帰命頂礼 十九夜の由来を詳しく尋ねるに数多の諸仏集まりて、若き女の大厄は、難産除けの祈祷にて、火水を改め身を清め十九夜待をするならば、慶長元年酉の三月十九日 十九夜念仏始まりて、雨の降る夜も降らぬ夜も・・・」

- ・ 利根川べりの女人講が十九夜と如意輪観音に定着するのは、十九夜塔で見ると寛文10年（1670）以降。
- ・ 元和7年（1621）から本格化した利根川東遷の治水大事業が一段落し、銚子から関宿を経由、江戸に至る水運のほか、新田開発が大規模に進んでいく頃である。
- ・ 費用のかかる石造物建立は、女性の地位が高く、財力もあった証である。
- ・ 二世安楽を祈願する中世末期の念仏講から、女人講が江戸初期の早くから成立した。
- ・ 女人往生と安産祈願は、不可分である。
- ・ 江戸中期には、子安信仰と習合⇒現世利益・親睦・相互扶助が中心、如意輪観音像から子安像塔へ
- ・ 十九夜の日がちが講の日選ばれたのは、謎（この日が単に集まりやすかったから？）
- ・ 平岩毅氏は「十九夜は月待ではない。観音崇拝の念仏信仰、19日は如意輪の縁日」

二十一夜塔

④ 二十一夜塔の事例



宝永4(1707)香取市
石納結佐大明神
聖観音像「廿一夜」塔



正徳3(1713)香取市
田部西雲寺
聖観音像「廿一夜」塔



享保6(1721)香取市
田部西雲寺
地藏像「廿一夜」塔

二十三夜塔 -1

⑤ 二十三夜塔をめぐる課題と事例



寛文8(1668)八千代市吉橋
尾崎大師堂の二十三夜塔



寛文9年(1669)八千代市萱田
長福寺の日記念仏&二十三夜塔



八千代市吉橋尾崎大師堂
境内の二十三夜塔
寛文8年10月10日
「右勢至菩薩者廿三夜待
開眼成就所 吉橋村施主
敬白」銘



尾崎大師堂境内の日記念
仏塔
寛文8年10月10日
「右地藏菩薩者日記念仏供
養成就処 吉橋村施主敬
白」銘 女性名連記



吉橋寺台公民館(勢至堂跡)の
二十三夜塔(勢至菩薩像)
元禄5年(1692)2月23日
「二十三夜開眼供養」男性名22
人銘



寺台公民館の日記念仏塔(聖
観音像)
元禄5年(1692)2月23日「日
記念仏開眼供養」
女性名30人銘。両者の願文
と経文の形式はほぼ同じ。

萱田の長福寺の日記念仏・二十三夜供養三層塔



左奥: 宝暦13年(1763)十九夜宝篋印塔
中央: 寛文9年(1669)日記念仏・二十三夜供養三層塔
左前: 嘉永5年(1852)子安観音塔
右: 元禄2年(1689)如意輪像十九夜塔

二十三夜塔 -2



寛文10(1670) 印西市大森古新田
青年館 勢至菩薩・地蔵像 二十三夜塔



延宝2(1674) 印西市平賀
不動堂 勢至菩薩像 二十三夜塔

二十三夜塔 -3



明暦3(1657)利根町徳満寺
板碑型二十三夜塔
関東では最古の二十三夜塔と言われてきたが、
水海道市で寛永19年の塔が見つかったとのこと



貞享3(1686)香取市石納(こくのう)
結佐(けっさ)大明神 板碑型二十三夜塔



元禄16(1703)香取市
野間谷原(のまやわら)水神社
光明真言 十九夜・二十三夜塔

二十三夜塔 -4



享和4(1804)八千代市高津
字宮ノ前庚申塚 二十三夜塔
「廿三夜待第勢至菩薩」銘

二十三夜の月待信仰は、
「月神の月天子は勢至菩薩の化身」と説く隋代の天台大師『法華文句』に由来。
⇒天台宗「三十日佛」説の「二十三日＝勢至」
⇒月神の本地仏・勢至菩薩と二十三日が結びつき、月を拝み念仏する風習が成立
(「千葉市の十九夜念仏塔」平岩毅『房総の石仏』6号)



印西市(旧本埜村)荒野南の内の二十三夜塔群
文化年間～昭和13年 江戸期の二十三夜塔は道標付が多い。
明治8年からは「女人講中」銘



寛政6(1794)八千代市高本
国蔵院 題目二十三夜塔
「南無妙法蓮華經
奉勸請二十三夜大月天子擁護」銘



明治6(1873)八千代市米本
字下宿東 道標付二十三夜塔
「廿三夜大神」銘

二十六夜塔 -1

⑥ 二十六夜塔をめぐる課題と事例



元禄5(1692)香取市石納
結佐大明神
勢至菩薩像 二十六夜塔



文化8(1811)佐倉市
弥勒町松林寺
愛染明王像 二十六夜塔



文化12(1815)八千代市下高野
道祖神社奥 二十六夜塔
「若者中」銘

愛染明王像塔



文化15(1818)佐倉市井野
千手院 愛染明王像 二十六夜塔



嘉永1(1848)印西市
松虫寺 愛染明王像塔「女人講中」銘

二十六夜塔 -2



安永8(1779) 旧本埜村荒野
南の内 道標付二十六夜塔
台石に「女人講中」銘



明治28(1895)八千代市高本
国蔵院 二十六夜塔



明治14~昭和43(1881~)
八千代市大和田新田上神明社
「女人講中」銘



江戸では「江戸の六夜待」として近世の江戸で隆盛をきわめた一時期があったという。月齢二十六前後の月は三日月のように細く、東天に姿をみせるのは明け方に近い時間である。7月26日のこの月光の中に、弥陀・観音・勢至の三尊が見えるといつて、文化・文政の時代には湯島天神などの高台や芝高輪品川などの海岸は見物客でにぎわい、月待信仰の名を借りた夜遊びの遊興娯楽の行事であったことから、風俗の乱れを懸念する幕府の取り締まりが行われ、天保期に入って急速に廃れたらしい。

ご清聴ありがとうございました。

